

演題「子どもと一緒に遊びましょう」

講師：ひしのみこども園 副園長 宮津 百合江 先生

子育ての一番は お母さんの笑顔。心を感じる。

何気ない言葉掛け、お子さんの声に耳を傾けることが大切。

泣くことは赤ちゃんの大事な仕事。泣くことで自分の意思を出している。また、赤ちゃんが笑うこともとても大切。情緒の部分が育ちます。

赤ちゃんと遊ぼう「あっぷっぷ」

最後はお母さんが出てくる

↓
子どもたちが喜ぶ



…笑うと負けよ。「あっぷっぷ」
…笑っちゃた。



会話を交わす。すると、気持ちが良くなる。すがすがしい気持ちになる。

⇒ 信頼関係が育つ

愛情をこめて応答してあげることが大切

少し高い声で。抑揚をつけて(大げさに)話す。同じことを何度も話す。ゆっくり間を取って話す。微笑みながら話す。

それが楽しくなって、1歳ぐらいになると指をさしながら話をするようになる。

言葉が生まれる基盤となり、会話が成り立ってくる

パクパクパッ君 こいのぼり



これ何だろう? 「いちご」
じゃあ食べてみよう。
あれ、いちごと同じあかになっちゃった。
これ何の雲? 「バナナ」
じゃあ食べてみよう。
パッ君は何色になるだろう?

「黄色」
どう、黄色になっちゃった。
これは何だろう?

「もも」
じゃあ食べてみよう。
何色になる?

「ピンク」
じゃこれは何だろう?

「メロン」
今度は何とメロン色のパッ君に変身。
あら、虹色のこいのぼりになっちゃった!



一緒につくってみませんか?



紙袋なんです
が、これに飾りをつけると「こいのぼり」になるんです。



最後に、「おおきく おおきく おおきくなあれ」の紙芝居をしていただきました。

参加者からは「お話だけでなく、歌あり、工作ありで子どもが長時間飽きることなく過ごすことができました。普段やっている「言葉の繰り返し」などが言葉の成長の糧にきちんとなれていることが分かって安心しました。」「保育のフロの先生の声掛けのコツや関わり方など、改めて心がけてみようと思いました。」「日々の育児に追われている中で、絵本の読み聞かせや紙芝居、こいのぼり作りは私も子どもも楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。」など、とても好評でした。

